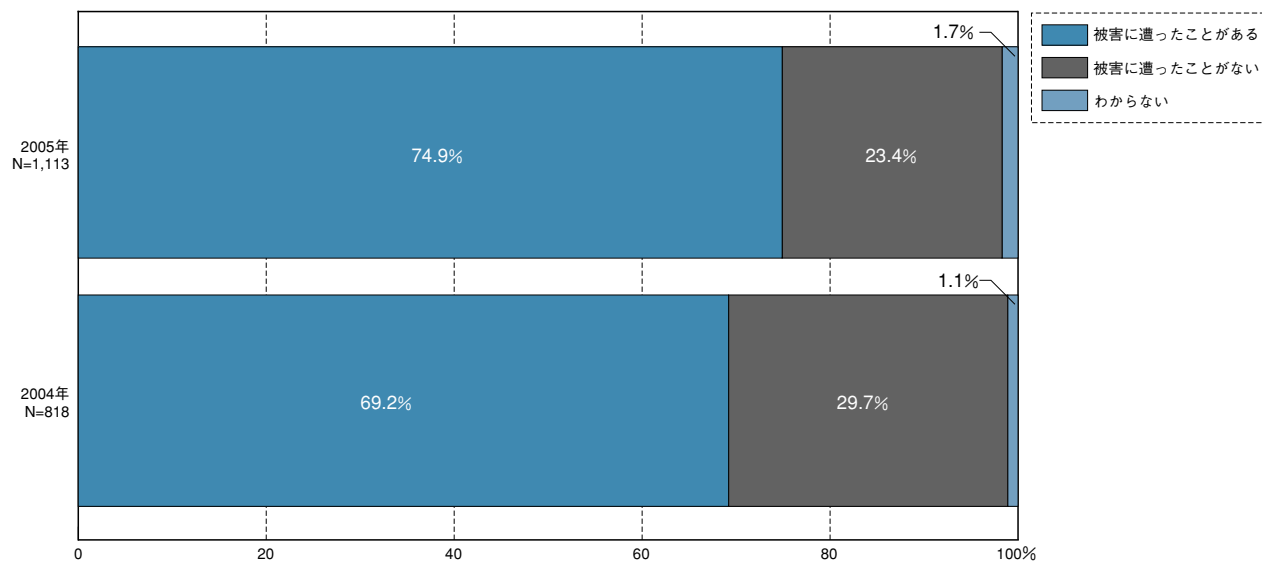


セキュリティ被害

インターネット利用における被害経験は約6%増加

資料3-5-1 セキュリティ被害の有無 (2004年-2005年)

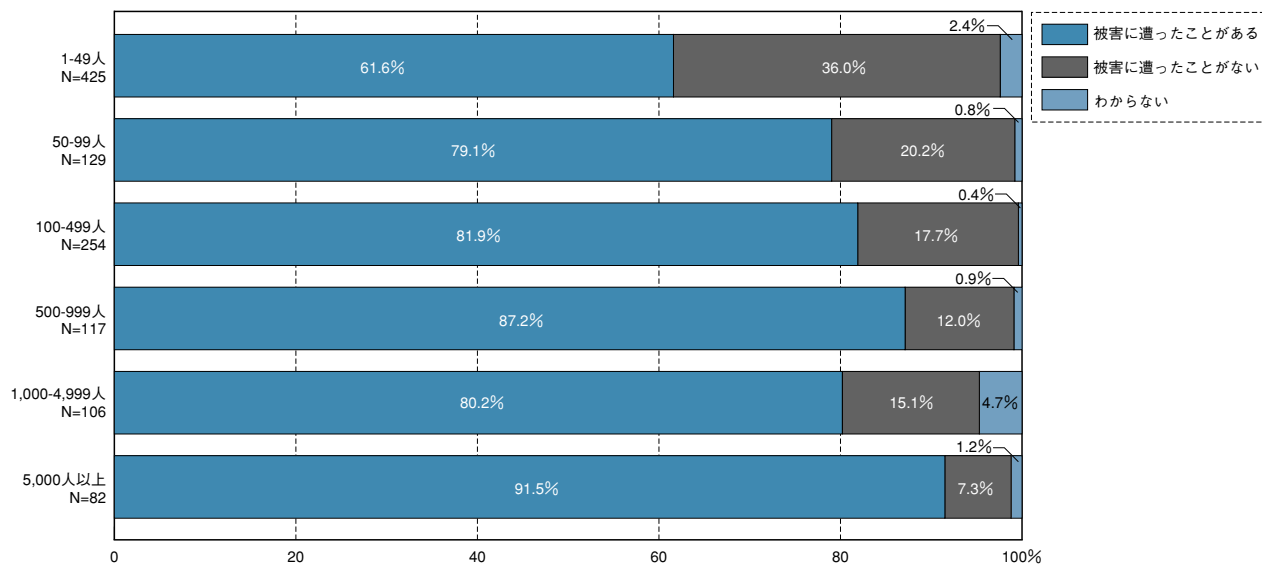


社内外からのクラック、ハッキング等の不正アクセス、ウイルス、ワーム等のインターネット利用における被害経験は、74.9%と昨年から約6%増加している。新種のワームやウイルスなどのセキュリティ対策は業務でインターネットを利用するうえでは永遠のテーマである。

©Access Media/
impress,2005

大規模になるほど被害経験率は増加

資料3-5-2 従業員規模別 セキュリティ被害の有無



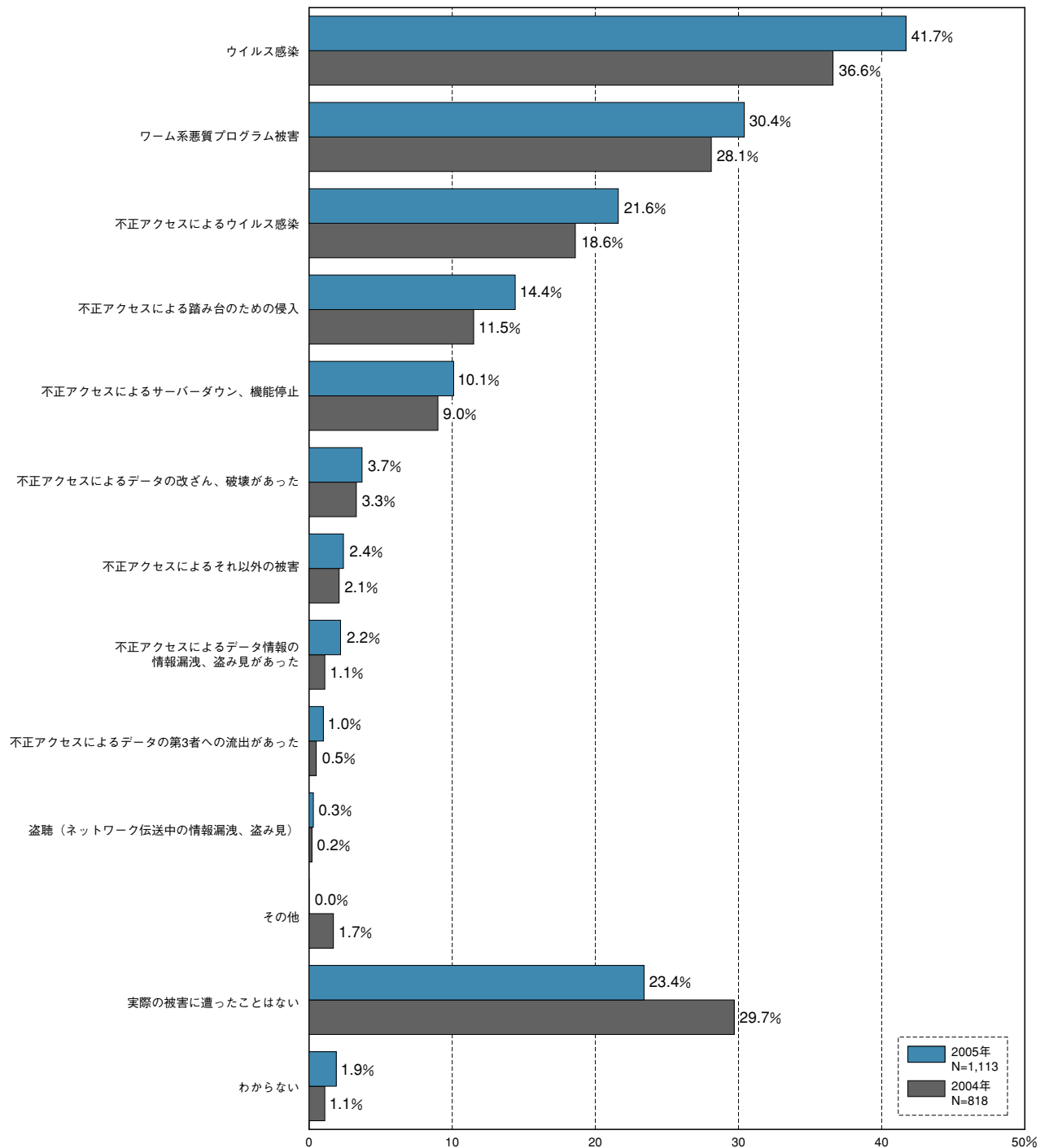
セキュリティ被害の状況を従業員規模別で見ると、大規模になるほど被害経験率は高くなる。従業員数が多いため、防ぎきれない確率は高くなる。無線やリモートアクセスなど利便性が高くなるほど、社内では従業員のセキュリティに対する認識を強化することが必須条件となる。

©Access Media/
impress,2005

セキュリティ被害

被害内容のトップはウイルス感染

資料3-5-3 セキュリティ被害の内容 (2004年-2005年) (複数回答)



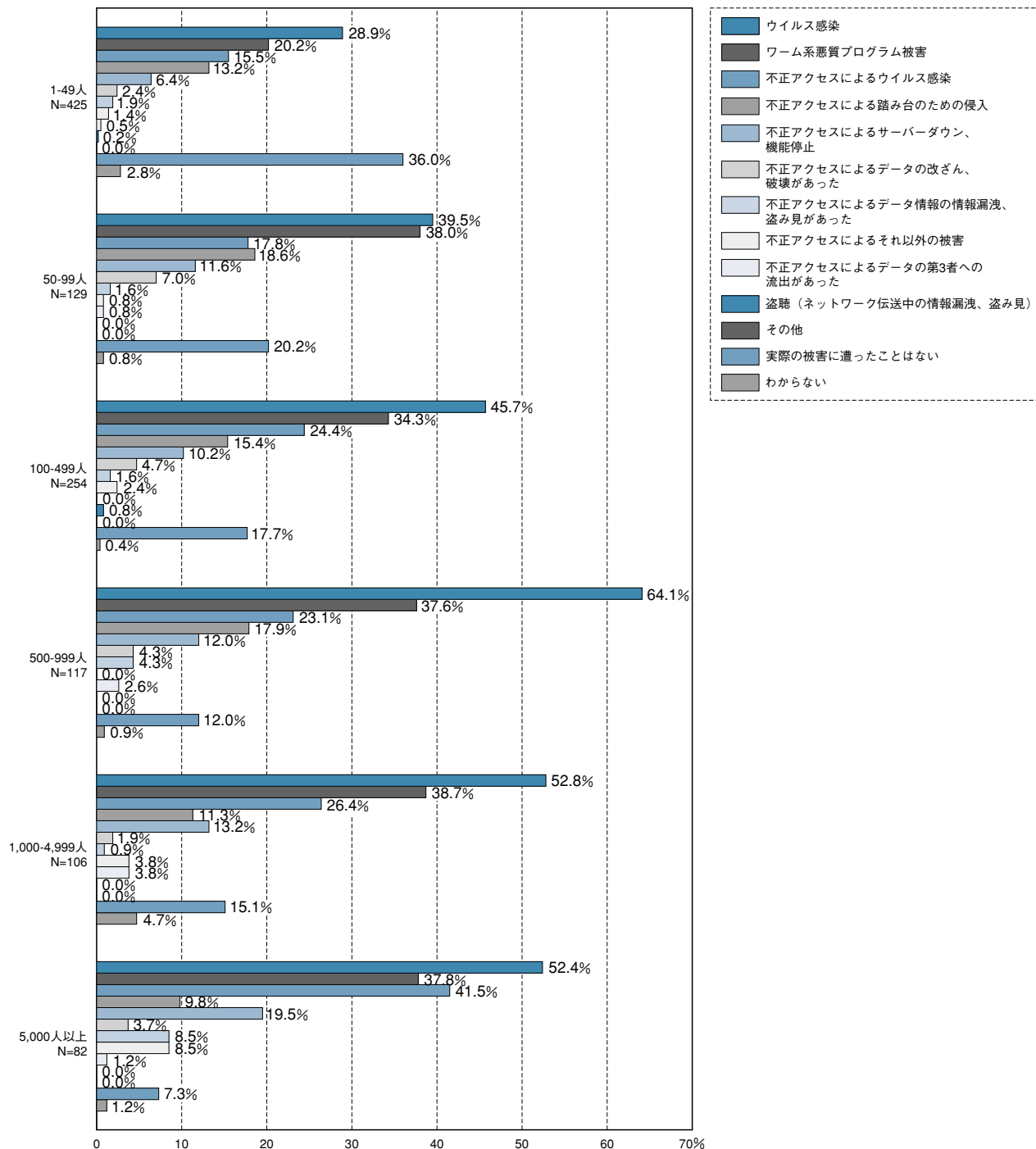
セキュリティ被害の内容のトップは「ウイルス感染」で4割を超す。次いで「ワーム系悪質プログラム被害」、「不正アクセスによるウイルス感染」などである。OSやブラウザのセキュリティホールの問題なども検証されているが、企業ではインターネットによる生産性、利便性が高くなる分、リスク管理の意識の高さも維持したい。

©Access Media/ impress,2005

セキュリティ被害

小規模企業は実際の被害遭遇率は低い

資料3-5-4 従業員規模別 セキュリティ被害の内容（複数回答）



従業員規模別でのセキュリティ被害状況をみると、小規模企業は実際に被害に遭ったことがない比率が高い。また、500人以上の企業規模では、「ウイルス感染」、「ワーム系悪質プログラム被害」の比率が高く、5,000人以上の規模になると「不正アクセスによるウイルス感染」や「不正アクセスによるサーバーダウン、機能停止」などの被害の多さが目立つ。

©Access Media/
impress,2005



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp